

令和元年度 第1回郡上市図書館協議会議事録

期 日：令和元年7月4日

会 場：白鳥ふれあい創造館 207号室

出席委員：青木貞廣氏、井藤一樹氏、蒲千保子氏、佐藤美子氏
中邑かすみ氏、古川浩子氏、馬淵旻修氏、野口明子氏
(欠席者：北村周氏、小畑裕己氏、)

事務局：正儀原昌宏社会教育課長補佐、畑中純子館長、木島咲枝

1. 開会

2. あいさつ 社会教育課長

日頃は図書館運営につきましてご理解、ご協力をいただきありがとうございます。この後予算についての説明もありますが、概ね概略を説明させていただきます。平成28年にも実施した鮎川信夫に係る講演や、本年度も実施した絵本作家のワークショップは、新年度は社会教育課の事業として実施します。ブックスタート事業を更に強化するために、保護者用に1冊プラスし、本の読み聞かせに理解を深めていただきたいと思います。図書を購入費については前年度と同額の1千万を要求しているところです。本年度の算定と来年度へのご助言をいただければと思っています。

3. 議題

(1) 平成31年度郡上市図書館運営方針について

委員長)事務局から説明願う。

館長)資料にある通り、今年度とほとんど変わりはないが、方針で「地域の発展に寄与する暮らしに役立つ図書館づくりをめざす。」としているが、現状をみた場合、利用者端末が本館でさえ2台しかない状態ではとても今風の情報拠点とは言い難いと思う。持ち込みパソコンにさえ電源が十分ではない。外部のデータベースを1つだけ入れていたがほとんど利用が無かった。パソコン設置場所が入口近くであったことも理由になるかとも思われる。関市立図書館・県図書館でも電子媒体の利用は少ないときいている。まだまだ紙媒体の方が利用されやすいようだ。そのため、「暮らしに役立つ」という言葉に変えた。今の図書館は賑わいが期待されているが、本来の図書館の役割は地域の様々な課題解決のために利用者への情報提供であり、記憶の倉庫としての地域の歴史や文化を未来へ継承していくことが図書館であると思うので、まずは紙媒体のものは所蔵していきたいと思う。

(2)の重点で「子どもの読書を大切にする」で、前は読書に親しむという言葉を使っていたが、なんとしても読書習慣を形成していかなければ子どもが不利益を被ることがあきらかになっている状況ではないかと思う。このため「読書習慣が形成されるよう」とし、「家読」は引き続き啓発に努めていきたい。3点目の利用者層の拡大では、数字でいえば4月か

ら2月までで登録者が一般で約140名、中学生以下が約130名あった。確実に増えているが、図書館に足を運んでくださる頻度が減っている。アンケート結果でも見るができるが、お母さんたちも「本は読んだ方がいいんだ、読まなくてはいけないんだ」と思っている方が増えているが、実際に本を手にするのかというとなかなかそこまでいっていない。

(3) 具体的施策のところは、前は7項目あったのを、6項目に減らした。「幅広い資料の収集に努める。」「図書館職員の資質向上に努める」を1つにして、「研鑽を積み、幅広い分野の図書や資料を知り、的確な資料提供につとめる。」とした。「インターネット予約の利用促進につとめる」は、ネット予約をされれば必ず図書館に本を取りにみえるということで、いささかでも図書館利用に繋がる。それ以外は変えていない。

(4) 「郡上市子ども読書活動推進計画では「子ども読書推進計画」の最終年に入るとともに「第3次」の策定にも入ってく。

委員長) 以上31年度の運営方針について質問はないか。

(2) 平成31年度郡上市図書館の当初予算案について

事務局) 確定ではないが、課長から説明のあったようにすすめられている。重要な資料費は今年度同様、31年度も1,000万円程の予算がつく。管理運営費では30年度が3,180万円で、31年度は3,708万円で約10万減額になった。ここの予算は人件費やシステムに関するものが主で、人件費が少し上がるが、リースが一部無くなったこと、今年度、はちまん分館のキャレルデスク設置と女性トイレの入り口ドア設置工事があり、来年度はこれらの費用がなくなったことで、減額となった。図書整備費は今年度は13,076千円、来年度は12,702千円。減額部部分は、消耗品で雑誌代が多少削られている。本のマーク代を、地元の書店での直接購入をしたりする部分でマーク代を減らした。子ども読書推進事業費は今年度は586千円だったのが、来年度は611千円の増額になる。増額部分は、ブックスタート事業で保護者への配布図書を増やすものである。

委員長) 予算は減ってはいるがなんとかやっていけそうだとということですね。

(3) 第2次郡上市子ども読書推進計画アンケート結果報告

委員長) いろいろ問題がたくさんあるように思われるが、質問はあるか。

委員) 調査は実態を知るうえで大切だと思うが、「大人が読書に親しんでいるか」で、親しむとはどれほどのものか理解しにくいのではないか。

館長) 細かく質問をしすぎると収拾がつかなくなる心配がある。

委員) 対策を考える時にぼやけてしまうのではないか。図書館の利用においても、どれほどの頻度で「はい」なのか分かりづらい。質問を詳細にすると課題がみえてくる。

委員) アンケートの目的は？

館長) 子ども読書活動推進計画の進捗状況を調べるのとなっている。

委員) 目標は100%なのか。

館長) 100%までいっていないものもある。

委員) 100%到達したらどうということか。

館長) 数字だけをみたら、現状を維持すればいいということになる。

委員) 質問で「公共図書館を利用する」のに、要望を入れることはないのか。

館長) 子ども読書活動推進計画がらみでは、そこまで細かくやっていない。

委員) 読書をするかしないかは個人の問題だが、図書館の利用については要望を入れれば課題が見えてくるのではないか。

館長) 子どもの読書については、学校・園や図書館でも一生懸命やってはいるが、なにより保護者が大事だと思ってくださらないと進まない。

委員) 学校図書館と公共図書館では違う。アンケートは館長が言われるように意図があって行うもので、方針の中に子どもの読書を大切にすると上げている以上、それに対してどのような働きかけをするか、公共図書館としての意味を持たせなくてははいけない。方針にあるように、くらしに役立つ図書館とある。

新聞を購読しない家庭が多いことに驚いた。親が読んでいない。インターネットでは中まで詳しくはわからない。地方版も載っていない。びっくりした。

館長) 新聞については、若い親だけではなく年配の家庭でもある。

委員長) インターネットで新聞を読んだ気になっている。家庭に新聞が広がっていて、子どもが何かの折に読んでいくことが読書にも繋がると思う。そういう環境が無くなっているのは怖いことだ。

委員) 学校図書館で読書の指導が難しい。教科書で読み物が減ってきている。どういう手だてが必要か考えていかななくてははいけない。

委員) 学校図書館と公共図書館が違うということはその通りであると思う。本を読まないことでの学力低下は顕著である。教材に出てきたものをリストアップして廊下に本を設置しているが、学校の本だけでは無理なので公共図書館に応じてもらっていて、とてもありがたい。

アンケートについて、項目1の「親しんでいるか」は細分化すると答えにくくなる。項目4「よく利用しているか」では選択肢を増やしたり意見を聞く欄があってもよいのではないか。図書館の利用が減っていることへの対策に繋がるのではないか。

委員) 新しい本が次々出版されるが、もっと読みたいと思ってもそれは無理なのか。

事務局) 幅広く収集するというのもあるので、流行本ばかり追うことは予算上無理がある。

委員長) 大人に「ごんぎつね」を読み聞かせをしたところ、とても感動された。大人にも読み聞かせができるのだと思った。

委員) 高齢者向けに「寛一お宮」の紙芝居をやったところ、とても面白がられた。こういう利用もあるのかと思った。

委員) 高齢者への読み聞かせは、初めは拒否されたが、大型絵本など喜ばれるようになった。学校では、たまに紙芝居をやるととても喜ばれる。

委員長) その他にないか。

委員) これからは電子媒体が益々必要になってくると思うが。

館長) 新しい図書館ではそれらが組み込まれているが、本館では入口に設置しているだけなので利用しづらい。複数のパソコンを設置したり、パソコンの持ち込みOKにするには全面改装しなくてはならなくなる。

委員) 図書費の予算の1千万円は、総予算に占める割合はどれほど。

事務局) 図書館の全予算は5千万円。

委員) 教育部門が総務部局に移行される動きがあるが、郡上はどうか。

事務局) 市長は図書館は直営でやるものという考えで、社会教育部門が市長公室部門へ組み込まれるという動きはない。

委員) 電子媒体と紙媒体で、紙を大切にしてくれていることは、学校においては大変ありがたい。公共図書館でポプラディアのような百科事典がセットで借りられるので大変ありがたい。

館長) 郡上は広いが、各地域に図書館があることはありがたいこと。子どもの疑問解決で、まず図書館を利用してもらうのが、図書館と子ども読書推進の目的だ。

委員) アンケートの来年度の課題で、子どもの読書ということで「家読」を奨励していくところは学校や園なので「いいえ」の理由を明らかにされるといいと思う。

館長) 言われる通りである。図書館は直接指導ができない。図書館は学校や園をバックアップしていく立場にある。

館長) 学校図書館司書の研修の中で一様に言われることは、スマホの弊害。子どもの読書は親の関心が大きな鍵になっている。学校の場合は担任のかける一声で奮起する。本の好きな子は読むが、友だちの影響は大きい。家庭でゲームを禁止しているところはよく読んでいる。

委員) 学校でスマホ・携帯の所持率調査を行ったところ、八幡小学校は6割を超えており県の平均を上回っていた。理由はいろいろあり、塾の迎えや、GPS機能で安否確認をしたいのではないかと思われる。子どもは親より機能の使い方を知っていたりもするので、無くていくことはできない環境にあるので、待っているだけではだめで、大人も攻めていかないといけない。

委員) 保育園の段階で「ノーテレビ・ノーゲーム」を取り組んでいけないといけないと思う。「ノーテレビ・ノーゲーム」の日の過ごし方は家族で本を読んだり、遊んだという回答がある。

館長) 美並は小中学校が連携している。

委員) みなみ園では今年から親の読み聞かせを行うようになった。

委員長) いろいろな意見をいただきました。

館長) 来年度のおとなの学校を計画している。みなさんのおかげで開校できる見通し。ありがとうございます。